

LITERARY MUSEUM

古河文学館



古河市は1990年以降、古河歴史博物館、鷹見泉石記念館、篆刻美術館、古河街角美術館など、さまざまな文化施設を市の中心部に建設してきたが、古河文学館はそのような文化政策の流れのなかで、1998年に開館したものである。当初は同市育ちの作家・永井路子の個人文学館として構想されたものだが、永井の「作家個人ではなく地域の文学館を」という要望により、古河に関連する文学資料を幅広く展示する施設として活動を続けている。

古河文学館の活動

古河文学館が資料収集の対象としている作家には、永井路子のほか、小林久三、佐江衆一、粒来哲蔵、粕谷栄市、沖ななも、山本十四尾、逸見猶吉、和田芳恵、若杉鳥子などがある。また、古河ゆかりの児童文学として、鷹見久太郎関係資料の絵雑誌「コドモノクニ」の原画のほ

か、古河市在住の児童文学作家である金田卓也、一色悦子の資料が展示されている。

館内には講座室や図書コーナーなども設けられており、文学イベントが定期的に催されている。2003年には別館・永井路子旧宅も開館するなど、展示内容がますます充実している。

茨城県古河市

古河市は茨城県の西端に位置する、人口約14万5千人の地方都市である。茨城県内の大部分の自治体が水戸街道（国道6号）沿いの文化圏であるのに対し、古河市は日光街道（国道4号）沿いの文化圏に位置している。城下町として発達してきた歴史を活かし、さまざまな文化施設を一日かけて巡ることができるようなまちづくりが目指されており、JR古河駅から徒歩で市内を観光できるような配慮がなされている。

所在地

〒306-0033

茨城県古河市中央町3-10-21

TEL：0280-21-1129

FAX：0280-21-1135